7　歯冠修復技工学実習における評価基準策定の試み

飛田　滋，五十嵐雅子，相馬泰栄，河野正司
明倫短期大学　歯科技工士学科

keywords：評価基準，指導要点，歯冠修復技工学実習

はじめに

明倫短期大学歯科技工士学科（以下本学科とする）は，開学以来歯科技工に関する実習の評価基準が設定されていなかった．これは教員間の学生指導方法に対して何らかの差異を生じさせ，学生間に混乱を招く可能性がある．本来は，評価基準が指導要点であり，教員は評価基準に則り的確に指導しなければならない．

評価基準とは，学生自身が目標を正確に認識し，自らその到達目標に向かって歯科技工技術を修得するための羅針盤であると考える．

本発表は，歯冠修復技工学実習における全部鋳造冠完成までの評価基準を試作し，その評価基準をもとに学生の成果を評価した試みについて報告する．

方法

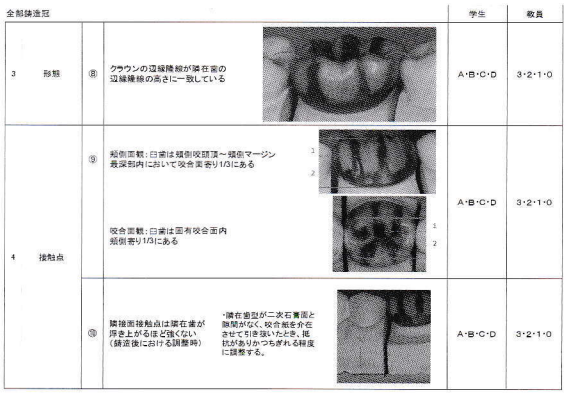
1．評価基準の試作
（1）評価基準策定の要点
①理解しやすい表現であること．
②客観的に書いてあること．（数値，図式の活用）
③明確なチェック方法を提示すること．
（2）評価項目数：16個

2．評価の試み
（1）対象者：平成24年度本学科１年生29名
（2）対象製作装置：全部鋳造冠（下顎左側第一大臼歯）
（3）評価者：本学科歯冠修復技工学実習担当教員３名
（4）評価方法：１項目４段階で採点
（３点，２点，１点，０点）

結果

本学科会議において平成23年12月から評価基準内容について検討を重ねた結果，平成24年７月に一定の評価基準（試案）が策定された．その評価基準シートの一部を図１に示す．

平成24年度本学科１年生の全部鋳造冠製作実習終了後に評価を実施した．その結果，各教員間においてばらつきが大きかった評価項目は，①切歯指導釘が切歯指導板に正しく接触している．②模型と咬合器を汚していない．③咬合接触点はABCコンタクトが再現されている④偏心運動時に早期接触がない．⑤マージンの研磨が良好である．の５項目であった．ばらつきが小さかった評価項目は①咬頭頂・中心溝の位置が隣在歯咬頭頂・中心溝の延長線上にほぼ一致している．②歯型のマージンとクラウンマージンが適合している．③軸面の研磨が良好である．の３項目であった．



全部鋳造冠			学生	教員
3　形態	⑧	クラウンの辺縁隆線が隣在歯の辺縁隆線の高さに一致している	A・B・C・D	3・2・1・0
4　接触点	⑨	舌側面観：白楽は舌側咬頭頂～舌側マージン最深部内において咬合面寄り1/3にある 咬合面観：白楽は面内咬合面内舌側寄り1/3にある	A・B・C・D	3・2・1・0
	⑩	隣接面接触点は隣在歯が浮き上がるほど強くない（鋳造後における調整時） *隣在歯型が二次石膏面と離間がなく，咬合紙を介在させて引き抜いたとき，抵抗がありかつ曲がれる程度に調整する。	A・B・C・D	3・2・1・0

図１　評価基準シート（一部抜粋）

まとめと展望

評価に大きなばらつきが認められた項目は教員間で共有し，今後の実習指導に活かしていきたい．すなわち不断のコミュニケーションが重要であると考える．

また，よりよい評価基準を構築するために今後も検討を継続していきたい．